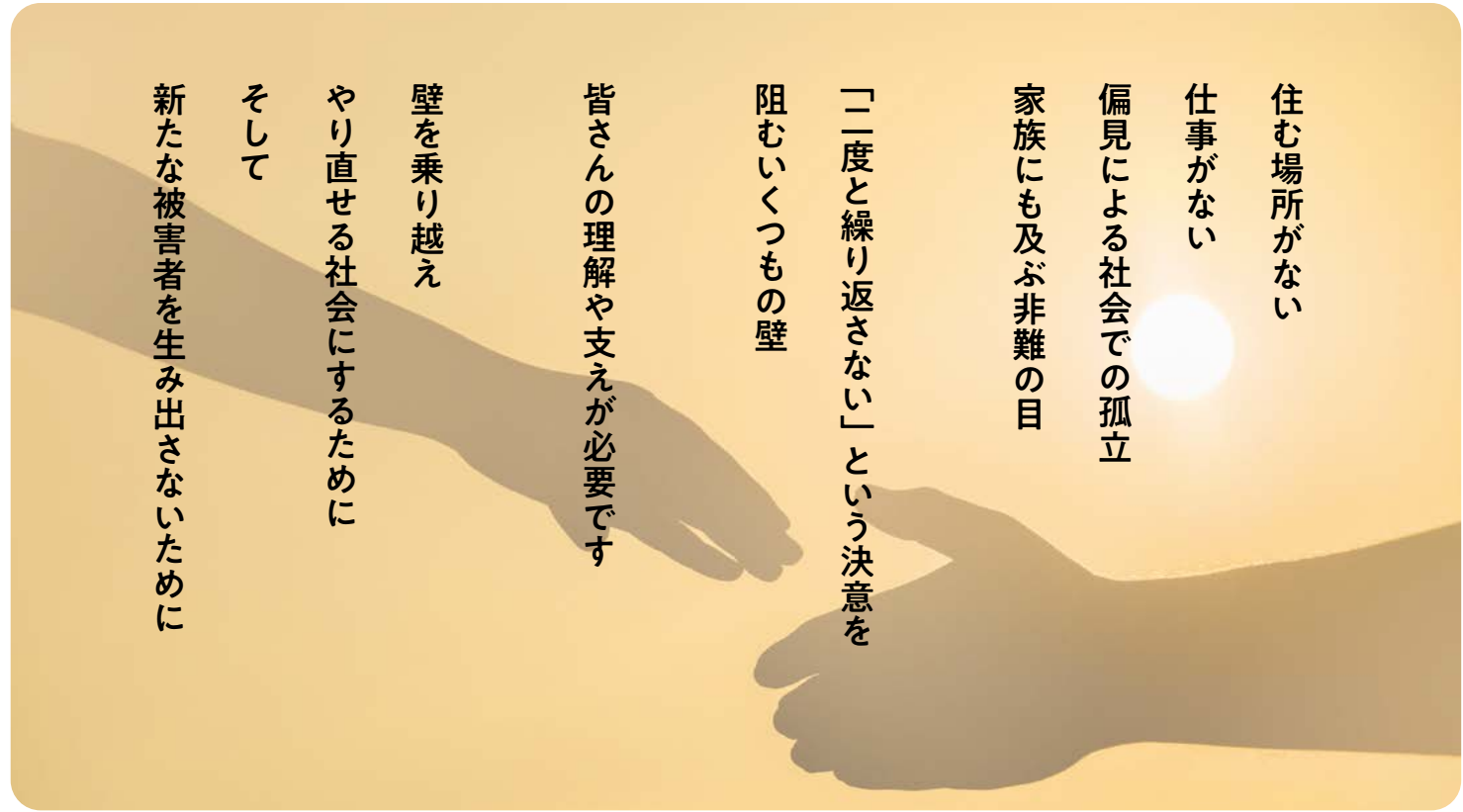


やり直せる社会の実現に向けて

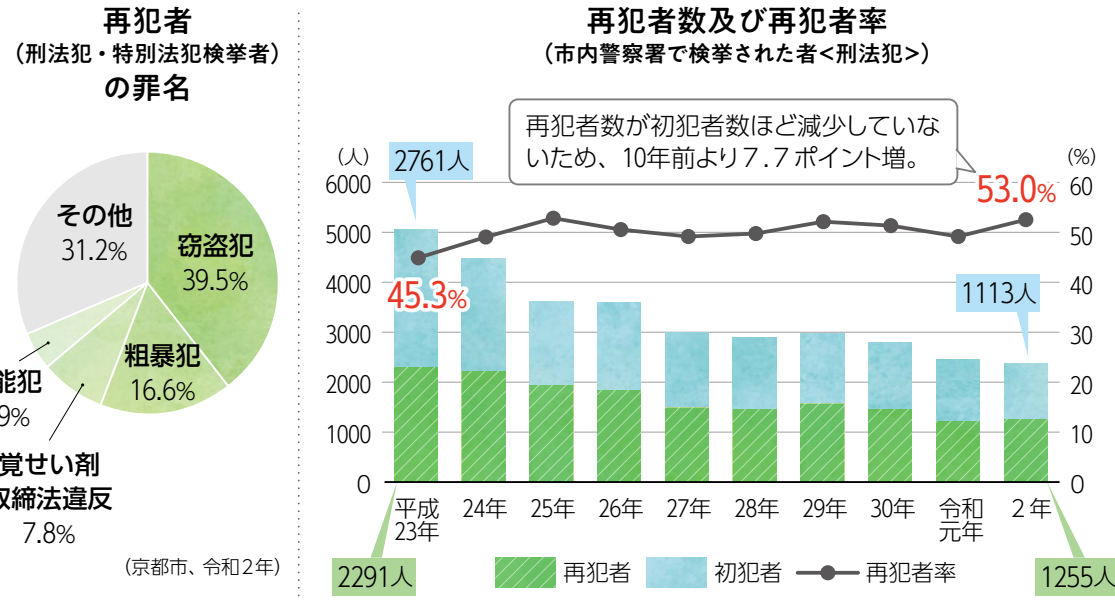
7月は再犯防止啓発月間です

再犯の現状

市内における刑法犯の検挙者数は、平成23年からの10年間で半分以上に減少。一方で、再犯者率（検挙者に占める再犯者の割合）は約5割と高い状態が続いています。犯罪の総数を減らすためには、減少幅の小さい再犯を減らすことが重要です。

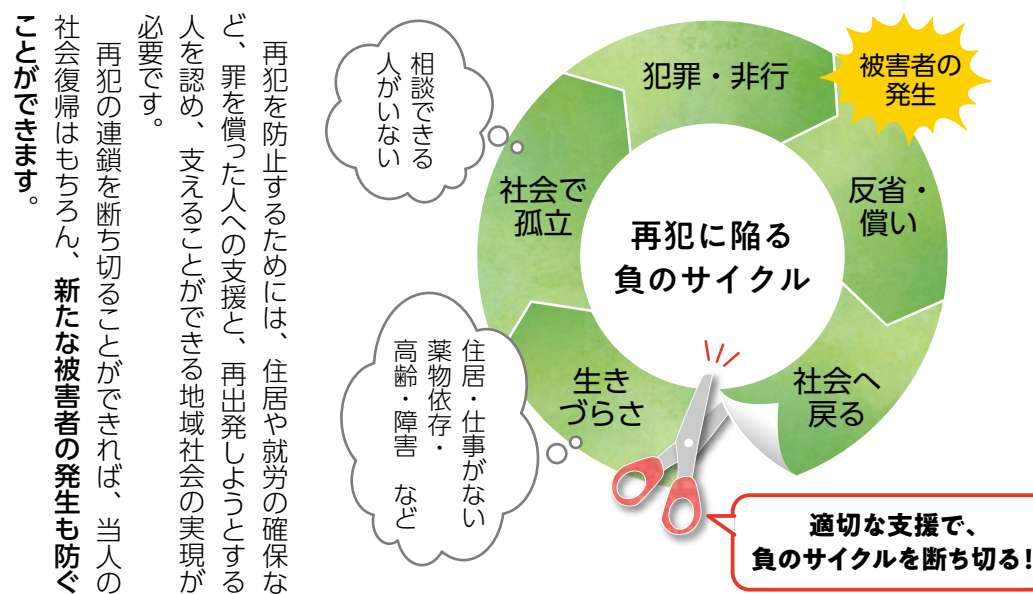


住む場所がない
仕事がない
偏見による社会での孤立
家族にも及ぶ非難の目
「二度と繰り返さない」という決意を
阻むいくつもの壁
皆さんの理解や支えが必要です
壁を乗り越え
やり直せる社会にするために
そして
新たな被害者を生み出さないために



なぜ犯罪を繰り返すのか

犯罪や非行をした人の中には、罪を償い社会で更生しようとしても、安定した住居や仕事がない、偏見などにより社会で孤立しやすい状況と、「生きづらさ」を抱えている人が少なくありません。罪を償った人の中には、こうした「生きづらさ」により、犯罪や非行を繰り返してしまう人がいます。



京都市の人口統計 (令和 3 年 6 月 1 日現在)
145万2549人 男 68万7289人 女 76万5260人
世帯数
73万1525世帯

地域における身近な支援

京都わかかきねっとの方にお話を聞きました

わかかきねっとでは、少女のための居場所づくりや寄り添い支援を実施。生きづらさを抱える少女とともに歩む活動を行っています。



右：渡部由紀子さん
保護司として20年以上ご活躍。手作り料理が少女らに人気。
左：加藤幸絵さん
自身も支援に助けられ、その恩返しをしたいと活動に参加。

加害者にも事情がある

渡部 「加害者になる前に、彼女たちは被害者であった。この言葉を念頭に置いて活動しています。いつも怒られたり、いじめられたり、やさしい言葉でだまされたり…。加害者にもそれぞれの事情があるので、「悪いことはあかん」というありきたりな注意をするのではなく、歩み寄り、話を聞くことを心掛けています。

「私にとって高級なのは毎日の手料理」

加藤 少女たちに「高級料理」といえば何？という質問をしたことがあります。

少女の居場所をもっとつくりたい

渡部 少女たちとは年齢を超えた仲間というか、友人感覚で付き合っています。「支援している」という感覚ではなく、自分自身が楽しいからやっているという感じ。少女がほっこりできるよう、こうした「普通の場所」をもっと増やしていきたいです。

加藤 辛いことを乗り越えて、少女たちには幸せになってほしい。そのために、居場所づくりの活動にはずっと携わりたいです。

※活動の詳細はホームページから。

京都わかかきねっと 検索

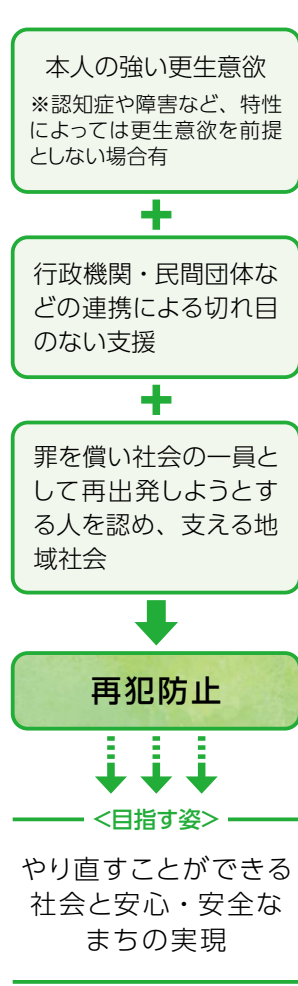
負のサイクルを断ち切るために

再犯防止推進計画を策定

今年3月に策定した同計画に基づき、国や民間団体など連携しながら取り組みを推進。「やり直すことができる社会と安心・安全なまちの実現」を目指しています。

目指すまちの姿

再犯防止に当たっては、本人の強い更生意欲だけでなく、孤立させないための支援と受け入れる地域社会を築くことが必要です。



取り組みの推進

6つの柱に基づき、50を超える取り組みを実施します。

- 1 住居・就労の確保などによる社会の居場所づくり
- 2 ネットワークの充実による保健医療・福祉サービスの利用の促進
- 3 非行の未然防止、犯罪などをした少年への継続した学びの支援
- 4 犯罪などをした人の年齢や特性に応じた効果的な支援の実施
- 5 民間協力者の活動との更なる連携、広報・啓発活動の推進による地域社会への理解促進
- 6 「再犯防止×京都の文化力」の視点による取り組みの推進

主な取り組み

- 更生支援相談員の配置
更生を目指す人に必要な支援につなぐ。
- 主な仕事
・刑務所などの刑事司法関係機関が、福祉的支援の調整を円滑に行うためのサポート
- 刑事司法関係機関と福祉関係機関の連携強化を図るための研修会の開催

居場所づくり補助金の創設

生きづらさを抱える若年者を対象とする民間団体の取り組みを支援。若年者が安心して過ごせる場などの創出につなげます。



犯罪被害者などの支援

被害者とその家族・遺族の方は、生命や身体への直接的な被害だけでなく、永続的な心身の不調や周囲からの心ない言動などに苦しめられています。

市では、そのような深刻な被害の回復・軽減のために、「犯罪被害者総合相談窓口」を設置し、支援を行っています。



※再犯防止の取り組みについての詳細は、保健福祉総務課で配布中の冊子やホームページで紹介。

京都市 再犯防止 検索

保護司や協力雇用主など、更生を支える民間協力者の活動も紹介。